

◆ 平成 19 年度（前期）県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等での FD 活動（教育改善）報告

実施主体	コーディネーター	テーマ	日・時	実施場所	参加者	簡単な状況報告
保健福祉学部 看護学科						看護学科としての FD 活動は実施しなかったが、学科長による教員への指導及び案内として、日本看護系大学協議会主催による FD 活動参加の呼びかけおよび事業報告等があり、FD の重要性について、話し合う機会があった。 また、石田宜子による「平成 19 年度看護教育ワークショップの報告」および、学生委員（山口三重子）による「チューターマニュアル（仮称）」の作成（作成途中）を行っている。
保健福祉学部 理学療法学科	清水ミシェル・ アイズマン	多数回講義を 欠席する学生 への対応と進 路変更につ いて悩む学生 への対応	毎週水曜日 の学科会議 内で検討	2416 会議室	理学療法 学科全教 員	理学療法学科では、体調不良により講義を多数回欠席する学生がおり、その対応策について学科内で検討した。また、進路変更の悩みから欠席を繰り返す学生についても対応を考えた。その結果、いずれの学生も現在は特に問題なく学生生活を送っている。なお、このテーマについては後期も引き続き検討を重ねていく。
保健福祉学部 作業療法学科	近藤 敏 田端 幸枝	大学における 初年次教育の 意義	平成 19 年 7 月 11 日(水) 12:30~13:30	2416 会議室	教員 11 名（学科 教員合計 数 15 名 中 の 73.3%）	本年度は学科の FD 活動の導入期であるため、教員の FD 活動に対する理解をより深めるために次の講演を依頼した。講演終了後に活発な質疑応答及び意見交換が行われた。 講師：友定賢治（保健福祉学部教授、総合教育センター副センター長） 1.学生の現状（学力を積み上げることで社会階層間での移動が可能であった東アジア型教育の時代は終わり、学生は「学び」の世界を求めている）。 2.勉強を強いられること（生徒であること）から学ぶこと（学生になる）への移行を促す授業の例。 3.本学科の課題（一般大学の学生と比較し、目的意識が明確で就職の保障があり、志願者数、基礎学力に差し迫った危機感がない本学科の学生教育の課題は？）
保健福祉学部 コミュニケーション障害学 科				1309 演習室	コミュニ ケーション 障害学 科教員	・学科会議で FD 活動の重要性について検討した。 ・「平成 19 年度県立広島大学 FD 活動促進事業計画」について、学科会議後に学科内で検討し、応募するに至った（採択済み）。
保健福祉学部 人間福祉学科	三原 博光	FD 活動の重要 性と FD 研修会 への参加につ いて	平成 19 年 7 月	保健福祉学 部（人間福祉 学科会議室）	人間福祉 学科教員 15 名	人間福祉学科教員に FD 活動の重要性と FD 研修会への参加の必要性について話し合った。その結果、教員達も FD 活動の重要性を認識し、9 月に三原キャンパスで実施された FD 研修会に多くの教員が参加するようになった。
経営情報学部 経営情報学科	生田 顕	情報教育に対 する授業公開 と意見交換	①6 月 28 日 (木)・2 限 ②7 月 2 日 (月)・3~5 限 ③7 月 3 日 (火)・2 限 意見交換会 7 月 4 日 (水)・4 限	①1311 演習 室 および 1361 演習室 ②1311 演習 室 ③1311 演習 室 および 1361 演習室 意見交換会 1215 会議室	15 名 (意見交 換会)	経営情報学科の 4 名の教員（森田・肖・小川（仁）・佐々木）が担当している「情報処理入門」を公開した。この授業は主にコンピュータを活用した演習形式を採用し、カリキュラムは、担当教員が目標設定・内容の選択・学生の理解度について、互いの情報交換を頻繁に行うことにより、最新のコンテンツを目指し決定している。今後、経営情報学科では、すべての授業をいつでも見学できるよう公開し、互いの授業改善に役立てることで合意が得られた。

経営情報学部 経営情報学科	生田 顕	高校数学に対する入学前教育についての報告と検討	7月4日 (水)・4限	1215 会議室	15 名	<p>経営情報学部では、平成 19 年度推薦入試入学者を対象として高校数学の基礎に対する入学前教育を行った。具体的には、高校卒業式終了後と大学入学式前の期間を利用して、課題提出と添削指導、および大学入学直後における高校数学基礎に対する学力試験を実施した。その結果、前年度と比較して若干の基礎学力向上が見られたことが、具体的なデータとともに報告された。この試みは学習成果を期待するより、むしろ経営情報学部に入學を希望する学生に対し、基礎的数学力の必要性を認識してもらいたいがある。したがって、継続して実施することが重要であり、それにより経営情報学部の特徴や目指す教育内容を受験生側に予め知らせる効果が期待される。</p> <p>以上の報告を踏まえて、本年度は、平成 20 年度推薦入試入学者を対象として、高校数学の基礎に対する入学前教育を継続して行う。具体的には、推薦入試合格発表後から入学までの期間に、入学予定者に対する過大提出と添削指導を行う。その際、高校教育経験者の助言指導を採り入れ、より有効な課題作成と添削作業を数回にわたり繰り返し実施する。</p>
経営情報学部 経営情報学科	生田 顕	経営情報学科専門科目についての意見交換	学科会議終了後 (継続中)	1215 会議室	17 名	<p>現在、経営情報学科の学生に資格取得を勧めている「初級システムアドミニストレータ試験」は、平成 21 年の春に実施される試験を最後に廃止されることが決定した。それに代わり、平成 21 年の春より「IT パスポート試験」が実施される。</p> <p>試験内容を考慮した結果、経営情報学科としては、学生に「初級システムアドミニストレータ試験」に代わり「基本情報技術者試験」合格を目指すことを勧める。具体的には、3 年次の春と秋に受験を勧める。そのために、以下の手順でカリキュラムの見直しを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.試験内容をカバーしている、あるいは可能な授業科目と開講年次の調査を行う。 2.その結果を踏まえた上で、それぞれの授業内容を、試験内容をカバーできるような可能な範囲で修正・拡充する。 3.授業の開講年次(前期・後期)の調整を行う。必要に応じてオムニバス科目を新設する。
経営情報学部 経営学科	山亥山 幸繁	FD 活動の日常的推進のための学科会議	(1)7月11日 (水) 定例学科会議後 (2)8月7日 (火) オープンキャンパス終了後(臨時学科会議) (3)10月10日 (水) 定例学科会議後	1212 会議室 その他	経営学科 教員	<p>(1)入学前教育について 情報学科・西田先生より、19 年度推薦入学合格者に対する入学前教育の導入について、その背景、実施状況等について説明を受けた。21 年度より推薦要件として「評定平均値 4.0 以上」を設定することになり、状況の改善が期待されるとのことであった。</p> <p>(2)専門ゼミの中間発表会について 専門ゼミ(3 年生)の中間発表会を、希望ゼミによる発表会として実施する予定である。なお、来年 2 月に庄原キャンパス 4 年生の卒論発表会を予定しており、その際は 3 年生の出席も呼びかける。</p> <p>(3)カリキュラムの見直しについて ①授業科目によっては内容が重複しているのではとの指摘があった。 ②カリキュラムの見直しに際しては、学生の資格取得に対する支援という点も配慮する必要があるとの指摘があった。 ③非常勤講師の集中講義は週末(土、日)開講が多く、また、3 年生対象の後期科目が多いということもあって受講生が少ない。学期における単位取得の上限設定の必要がないか問題提起があった。</p> <p>(4)授業評価について 授業評価の結果について検討の必要があるとの指摘があった。</p>
生命環境学部 環境科学科	西村 和之	学科教員による FD・プレゼンテーション講	原則として毎月 1 回、1 時間	庄原キャンパス内の空き教室(主と	毎回の発表担当者は、環境	<p>本年 4 月から下記の内容で計 4 回(10 月末現在)実施した。</p> <p>*5 月 30 日(水) 18:00~19:00, 3201 講義室 「有機性廃棄物の処理と利活用」 西村和之</p>

		座	(質疑込み)	して3201講義室)	科学科の専門教員による輪番制とし、聴講者は教員、院生などの自由参加	<p>*6月27日(水) 18:00~19:00, 3201講義室 「溶質-溶媒相互作用から分離・分析」 西本 潤</p> <p>*8月8日(水) 18:00~19:00, 3201講義室 「水田農法の歩みと技術開発-技術の進歩と退歩」- 宮本 誠</p> <p>*10月31日(水) 18:00~19:00, 3201講義室 「廃棄物再生製品の利用における環境安全評価の考え方」 崎田 省吾</p> <p>これらのセミナーを通して実験・教育手法に対する意見交換、卒論生・院生等の専門分野に対する学習意欲の啓発や学部・大学院の受験生の獲得などに関する話し合いを行っている。</p> <p>本件は、県立広島大学FD活動促進事業として採択されていることから、年度末に向けて定期的に開催すると共に、次年度以降も継続して行く予定である。また、セミナー資料を印刷し、オープンキャンパスや高校訪問時における学科紹介資料として配布する予定である。</p>
生命環境学部 環境科学科	西村 和之	分析化学に関する授業打合せ	平成19年度前期、原則として毎週1回	庄原キャンパス内の教員研究室(参加者の部屋等)	「分析化学」担当教員2名(西村和之、西本潤)	<p>「分析化学」は、環境生命学部共通の専門基礎科目(必須科目)であり、各学科の半数ずつの学生から成る1クラスに対して2年生の前期に同時平行で2人の教員が分担して講義を行っている。そこで、クラスごとで授業内容の偏りが出ないように、また、一方で出た質問内容等に対しても共通の話題として提供できるように1)進捗状況打ち合わせを定期開催(毎週1度程度)実施して次回の講義内容等の微調整を行う、2)講義内容の統一性を図るために、共同でpptファイル等を作成し講義に活用すると共に学生への配布資料とする、および、3)解答例を含む共通の課題と共通問題による定期試験の実施により、評価基準の統一を行った。</p> <p>学生による授業評価後は、次年度に向けた講義内容の変更を含む講義手法等に関する意見交換を行った。</p>
生命環境学部 科学系実験担当教員	西本 潤	科学系実験・実習に関する打ち合わせ	9月5日9時30分から、約1時間(質疑込み)	庄原キャンパス内の空き教室(4306演習室)	黒柳正典 市川洋子 増田泰三 崎田省吾 西本潤 内藤佳奈子	<p>生命環境学部では、化学実験、専門基礎実験Iおよび分析化学実験の3つの化学系実験が必須科目として1、2年生で実施されている。従来、各々の実験内容に関する統一的な打ち合わせは無く、担当教員の自主判断で実験内容が定められて開講した。学部のアドミッションポリシーを明確にする上で、必ずしも統一的で行われていない現行の実験内容を精査し、学習効果を高めるために、実験担当教員による打ち合わせ会を開催し、問題点やその改善方法などについて、話し合いを行い、実施できるところから改善策を実施することとした。</p>